

# 佐賀城下再生百年構想 調査報告書

平成 19 年 3 月

佐賀城下再生百年構想策定会議

# 目 次

はじめに .....	2
第1章 佐賀城下の現状 .....	3
1. 佐賀城下の歴史と背景 .....	3
2. 佐賀城内のコミュニティの状況 .....	4
2. 佐賀城内のコミュニティの状況 .....	5
3. 土地利用の状況 .....	7
4. これまでの整備状況 .....	8
5. 佐賀城下の法規制の状況 .....	10
第2章 佐賀城下の利用実態 .....	13
1. 中心市街地の歩行者の状況 .....	13
2. 佐賀城本丸歴史館の利用状況 .....	14
3. 立場別からみた佐賀城下の問題 .....	18
4. 佐賀城下の問題マップ .....	22
5. 佐賀城下の課題 .....	23
第3章 佐賀城下再生百年構想(案) .....	25
1. 構想のコンセプト .....	25
2. 佐賀城下で100年残し続けたい資源 .....	26
第4章 具体的な取り組みの展開 .....	29
1. 佐賀城下のまちづくり .....	29
2. 佐賀城下の観光戦略 .....	33
3. 佐賀城下公園・景観づくり .....	37
参考資料 .....	39
1. 既往計画の整理 .....	39
2. 佐賀城本丸歴史館の来訪者アンケート結果 .....	44
3. 佐賀城周辺探訪会の議論内容 .....	55
4. 事業手法事例 .....	59
5. 拠点施設事例 .....	62

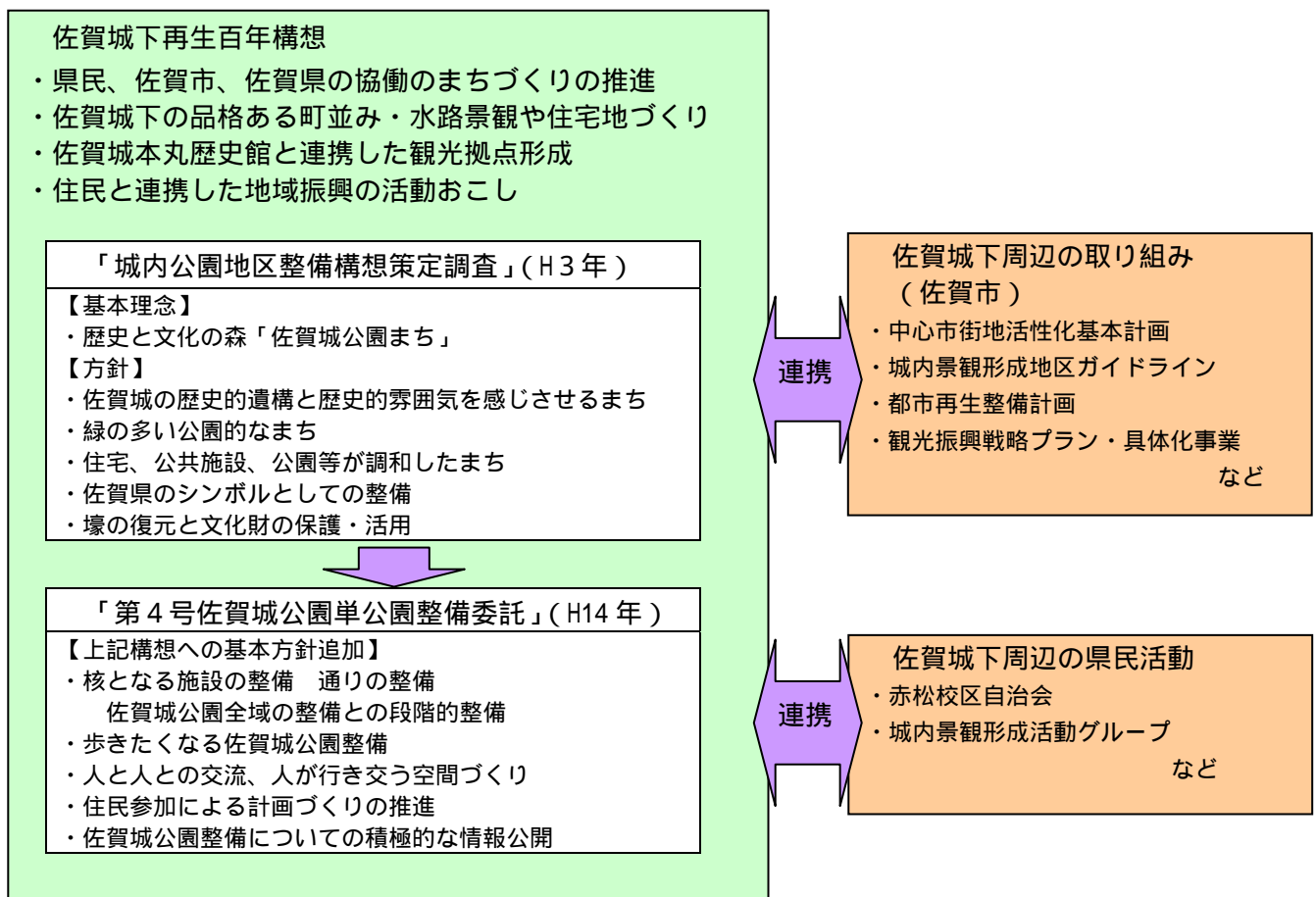
## はじめに

### 100年後の孫の世代まで受け継げる品格ある佐賀城下の再生

平成3年度に策定された「佐賀城公園まち構想」においては、歴史と文化の森「佐賀城公園まち」をコンセプトとし、歴史・文化の中心地として、水と緑に囲まれた自然的空間の中に歴史的雰囲気を感じる公園や住宅地・公共施設が調和し、静的ゾーンとして県民のシンボルとなる公園的まちづくりが進められている。

平成16年には佐賀城本丸歴史館が開館し、構想の具現化が進んでいるが、一方で佐賀地区の観光拠点としての役割や中心市街地や柳町周辺の観光エリア等の周辺地域との連携の必要性、地域住民との共生できる景観や住宅地づくりなど、様々な問題も生じてきている。

本構想は、それらの諸問題を総合的に捉えつつ、佐賀城本丸歴史館を拠点として城内及び周辺地区を含む佐賀城下において、100年後の孫の世代まで受け継げる品格ある佐賀城下の再生を目指すために策定したものである。



# 第1章 佐賀城下の現状

## 1. 佐賀城下の歴史と背景

江戸時代から現在までのこれまでの佐賀城下の歴史と変遷をまとめた。

### 江戸時代

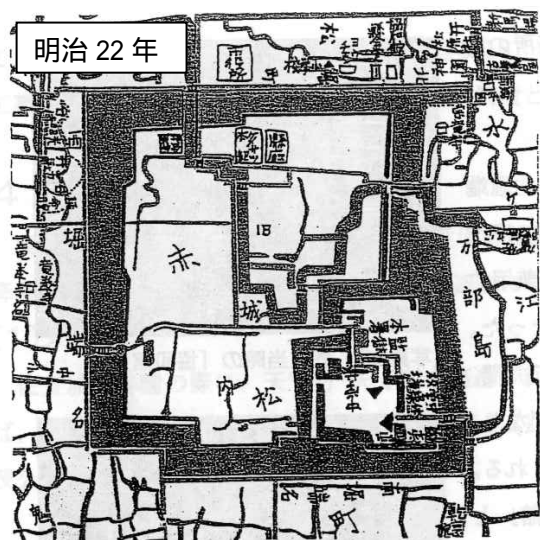
- 1592 龍造寺氏の居城・村中城を拡張、整備する。
- 1608 佐賀城総普請始まる。
- 1611 佐賀城総普請が完成する。鍋島勝茂、本丸に入る。
- 1653 二ノ丸造作開始
- 1726 佐賀城大火災、天守閣をはじめ本丸・二の丸・三の丸類焼、本丸建物は土蔵のみを残す。
- 1727 幕府より佐賀城普請が許可され、二の丸普請に着手。
- 1728 二の丸の完成、藩政の中心となる。
- 1798 三千間の石搦みが完成
- 1835 佐賀城大火災、二の丸焼失。  
鍋島直正本丸再建を表明し、建設に着手する。
- 1837 本丸上棟
- 1838 直正、新築した本丸に入る。



資料：御城分間御絵図（鍋島報校会）

### 明治時代

- 1869 版籍奉還により、佐賀藩庁設置。
- 1871 廃藩置県により、佐賀県庁設置。
- 1874 佐賀戦争（本丸は焼失を免れる）、  
佐賀裁判所設置。
- 1883 佐賀中学校、本丸跡に移転する。
- 1883 県庁が城内に設置
- 1886 佐賀県尋常師範学校、本丸跡に新築移転する。
- 1887 天守台上に佐賀県立測候所が開設される。
- 1891 佐賀 - 鳥栖間の鉄道開通
- 1907 佐賀市立商業学校設置、本丸敷地東半分を利用。  
（大正11年に県立に移管）
- 1909 赤松尋常小学校、本丸跡の建物を仮校舎として  
移転する。



資料：福岡レジュメ

大正～昭和初期

- 1920 赤松尋常小学校新築工事竣工
- 1927 馬鉄が廃止され、バス運行開始
- 1929 佐賀県立図書館開館
- 1930 佐賀市議会で佐賀地方都市計画区域決定
- 1933 鍋島家より城濠の寄付を受け、佐賀市が城濠の埋め立てに着手
- 1935 貫通道路（国道 207 号）が開通



資料：福岡レジュメ

戦後～平成

- 1958 御座間を水ヶ江大木公園に南水会館として移転。
- 1963 市村記念体育館が竣工
- 1968 NHK 佐賀放送会館落成
- 1970 明治百年事業として博物館が開館
- 1983 県政 100 年事業として美術館が開館
- 1993 赤松小学校が移転
- 1998 佐賀駅末次線（くすの栄橋）開通
- 2001 「旧佐賀城本丸御座間・堪忍所」佐賀市重要文化財（建造物）に指定。  
「佐賀城跡」佐賀県史跡に指定。  
佐賀県立歴史資料館（仮称）建設着工。
- 2004 佐賀県立佐賀城本丸歴史館開館



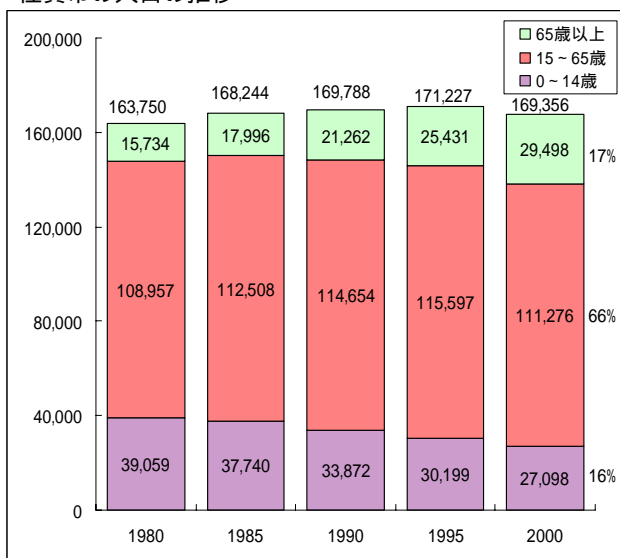
資料：都市計画図

## 2. 佐賀城内のコミュニティの状況

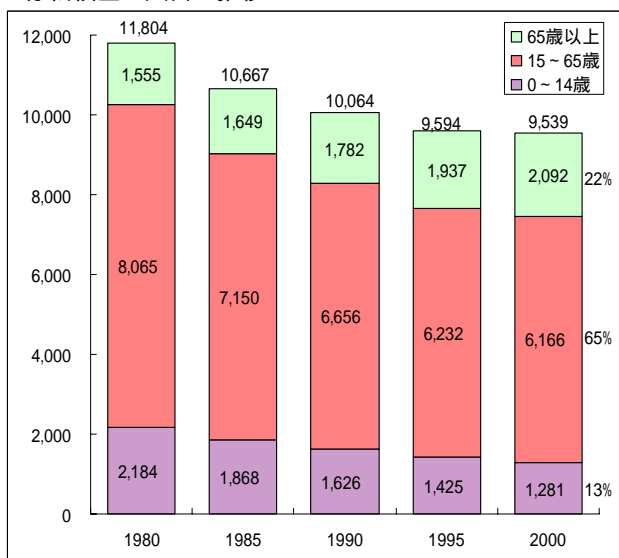
城内コミュニティを維持していく仕組みが必要に

佐賀城下エリアである赤松校区では、人口減少や少子高齢化が、佐賀市全体よりも進展している。赤松校区内をさらに城内の2地区にしぼって見た場合はさらに高齢者の占める割合が高いのがわかる。城内住民へのヒアリングでも、城内の世帯数 600 に対し、新小学生が1～2人程度であり、逆に75歳以上の人々が136人もいるなど、少子高齢化が非常に進んでいる。高齢者の中には1人暮らしも多くなっていることから、地域ぐるみでの対策が必要になっている。

佐賀市の人口の推移

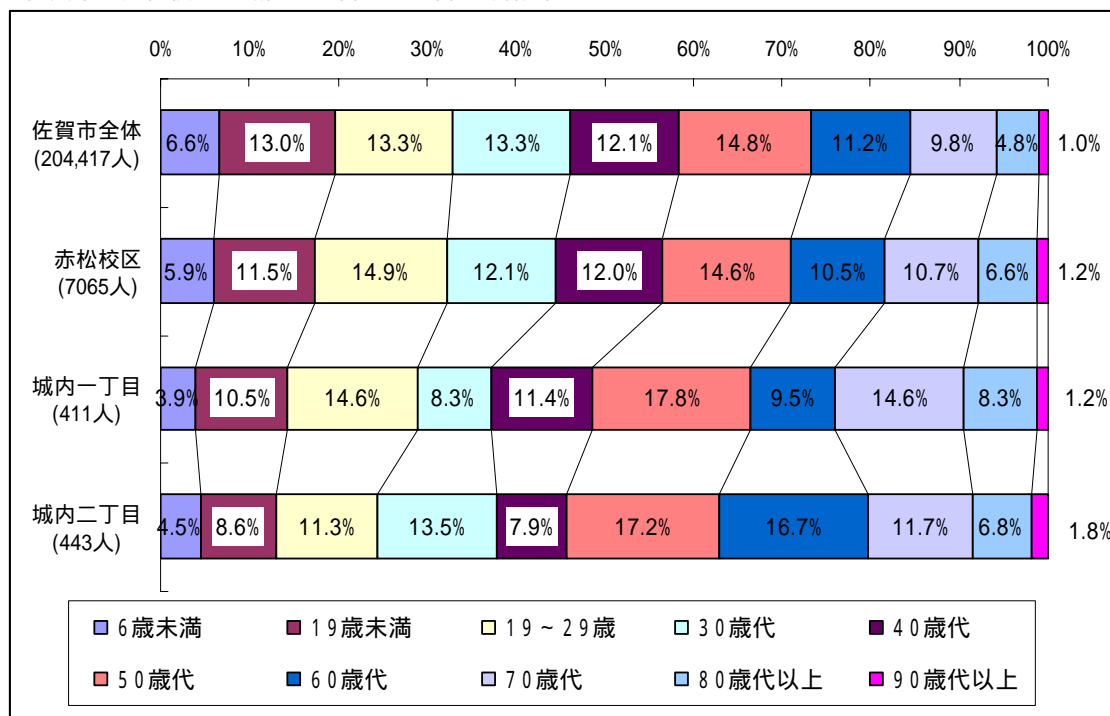


赤松校区の人口の推移



資料：国勢調査

佐賀市・赤松校区・城内一丁目・二丁目の年齢別人口



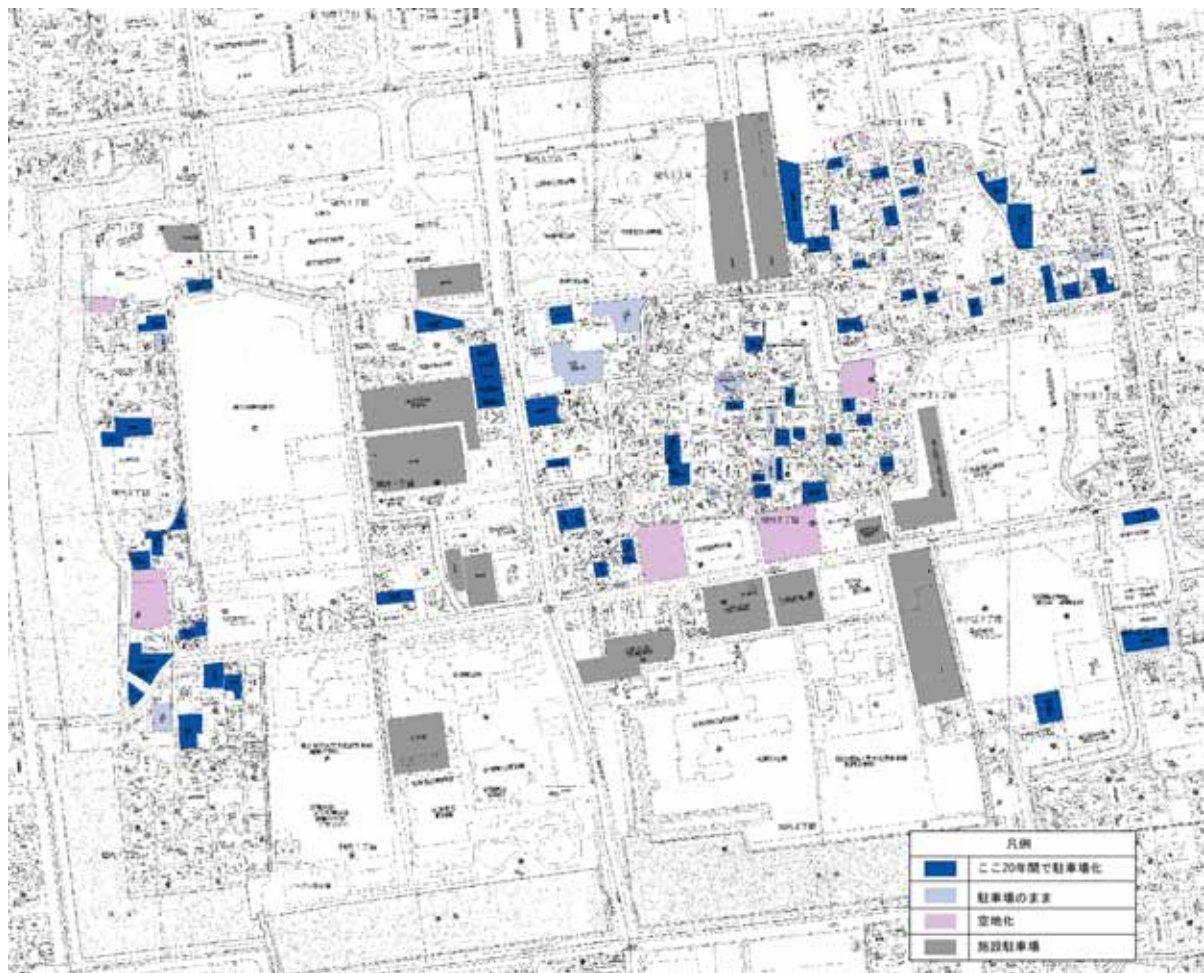
資料：住民基本台帳 (H18.12)



佐賀城下にふさわしい町づくりと子どもや高齢者が住みたくなる町づくりの調和が必要  
人口減少、子供の減少、高齢化の進展に伴って、城内中心部での空き地・駐車場化が進展して  
いる。不動産ヒアリングによると、城内地区の住宅地需要はあるものの、区画や道路の狭さとい  
った利便性の悪さが、開発需要につながっていない状況である。

ただ、開発需要に任せた土地利用を行うと佐賀城下の景観を損なう可能性があるため、佐賀城  
下にふさわしい町づくりと子供や高齢者が住みたくなる町づくりの調和のとれた土地利用の検討  
が必要になっている。

佐賀城内の空地化の様子（1985年、2005年のゼンリン住宅地図の比較）



資料：ゼンリン住宅地図（1985年、2005年）

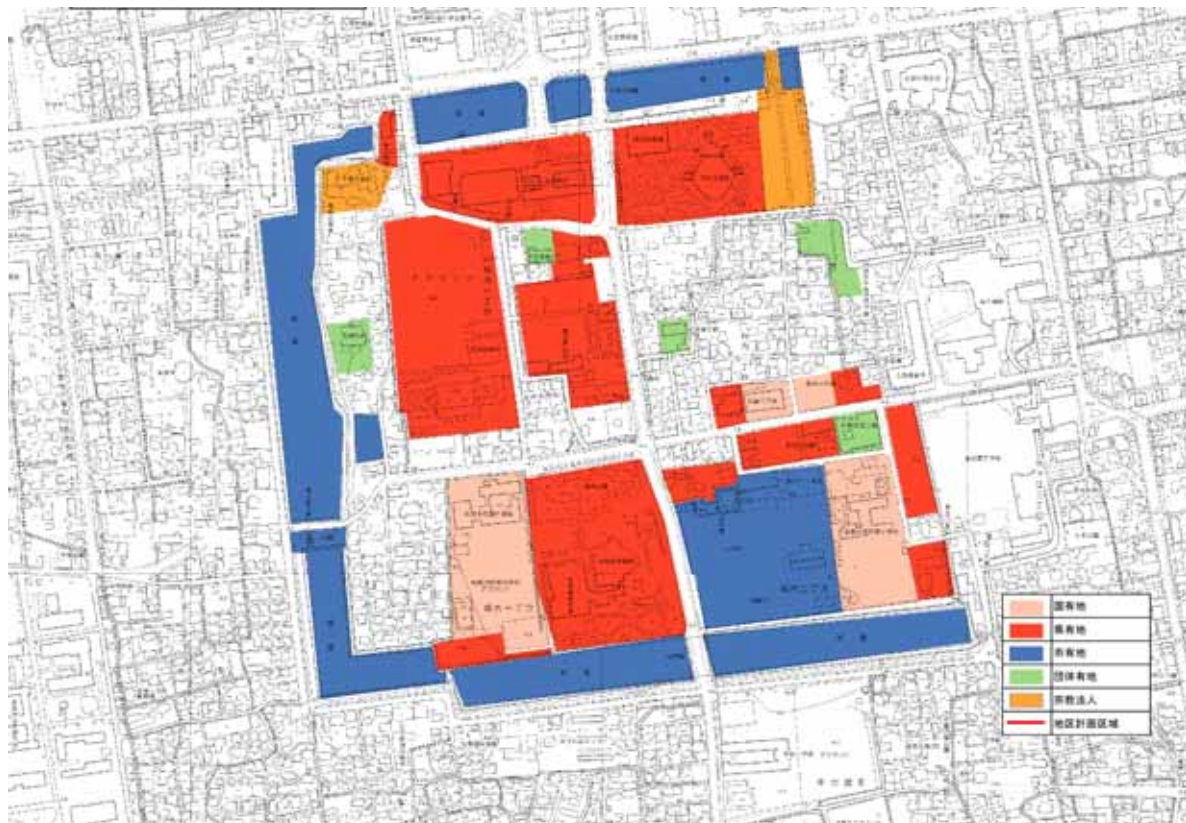
### 3. 土地利用の状況

#### 公的空間整備と城内の住まいづくりの調和とバランス

佐賀城内の土地利用状況をみると、その多くが公的機関の所有である。道路空間も含めて考えると、城内のまちづくりへの公的機関の影響は非常に大きい状況である。

西城内と東城内に分布する私有地は、その多くが住宅地であることから、公的空間の整備と合わせて、佐賀城下にふさわしい住まいや景観づくりを行っていく必要がある。

#### 佐賀城内の公共用地・私有地の状況





#### 4.これまでの整備状況

佐賀城本丸歴史館の整備や、西城内のマンション問題、水道局跡地のマンション問題など、最近の佐賀城内の整備状況を以下にまとめた。

これまでの整備状況	
歴史の森ゾーン (鯨の門周辺)の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用地買収を昭和62年より進めている</li> <li>・赤松小学校の移転(平成5年)</li> <li>・佐賀城本丸歴史館の整備(平成16年8月開館)</li> <li>・東濠の復元整備(用地買収を進めており、今後お濠復元を予定している)</li> <li>・NHK佐賀放送局等の移転が残されている</li> </ul>
多布施川の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県庁舎改築に合わせて周辺の整備を完了している(～平成9年) 県庁周辺及び西高の東側(市道沿い)が整備済み</li> <li>・上記以外は未整備である</li> </ul>
北濠の濠越え道路 (佐賀駅末次線：佐賀市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成9年に供用 佐賀市の街路事業にて整備(県庁東側含む) 上記整備に併せて、佐賀城公園(図書館西側)の整備(噴水など)</li> </ul>
西の御門橋の整備 (城内線：佐賀市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成16年に西の御門周辺整備検討委員会設置し、景観等について検討した 当委員会において、濠を埋めないルート検討も議論された。(地元アンケートの結果では、安全な道路(両側歩道等)を望む) 佐賀市は、当委員会の答申を受け、既都決での整備を進める方針</li> <li>・平成18年文化財本調査を実施 平成19年度に工事着手し平成21年度完成にて実施予定</li> </ul>
西城内マンション問題 (H13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成13年に発生したマンション建設問題により平成14年4月佐賀市(市土地開発公社)にて買収</li> </ul>
高度規制の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成14年「高度地区(建物の高さ15m以下)」の指定</li> </ul>
景観ガイドライン作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成13年景観やまちづくりを考える会を立ち上げ、赤松校区全体の景観ガイドラインを策定</li> <li>・平成14年城内都市景観形成地区の指定</li> </ul>
佐賀市水道局跡地マンション問題(H16)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成16年に発生したマンション建設問題により平成17年7月佐賀県(県土地開発公社)にて買収</li> </ul>
地区計画の検討中(建物の高さ規制及び用途規制)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・城内地区内の建物高さ規制(10m以下)と共同住宅の戸数の制限について都市計画の手続き中(平成19年度早期の都市計画決定の予定)</li> </ul>

## 佐賀城内の整備状況





## 5. 佐賀城下の法規制の状況

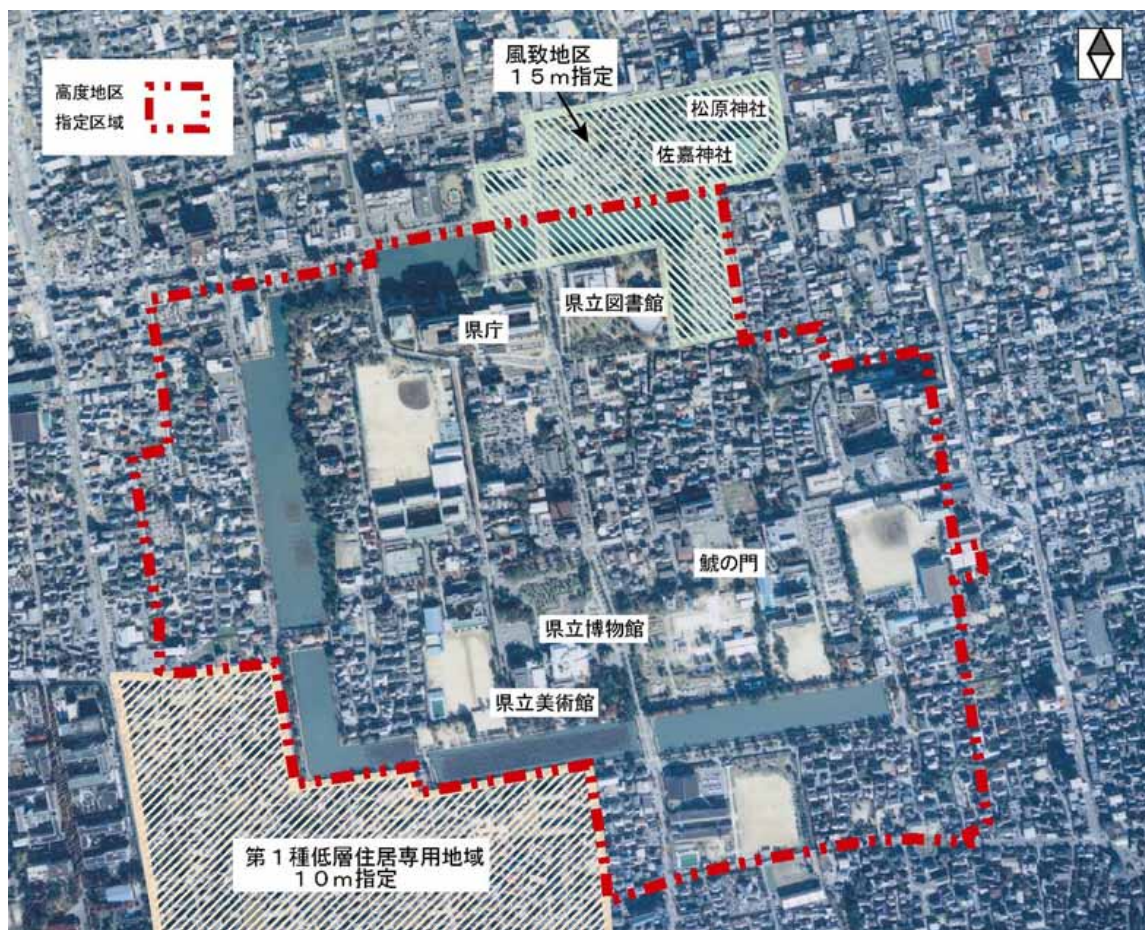
### 15mの高度地区指定区域の設定

佐賀城下においては、これまでの城内マンション建設計画等によって、景観や居住環境への影響が問題となったことを受け、城内周辺の歴史的景観と良好な居住環境を守るため、新たに高度地区の指定により、建築物の高さの制限を行っている。

東西南北にめぐるお濠には、水と緑からなる良好な景観が形成されており、この良好な景観は、お濠の内外の景観も含まれていることから、城内に限らず佐賀城下の一定範囲を含めた区域を高度地区指定区域とし、高さ最高限度を15mとしている。

佐嘉神社周辺の風致地区や南堀の南西側の第一種低層住居専用地域は、すでに法的規制があるため、高度地区指定区域には含んでいない。

### 高度地区指定区域

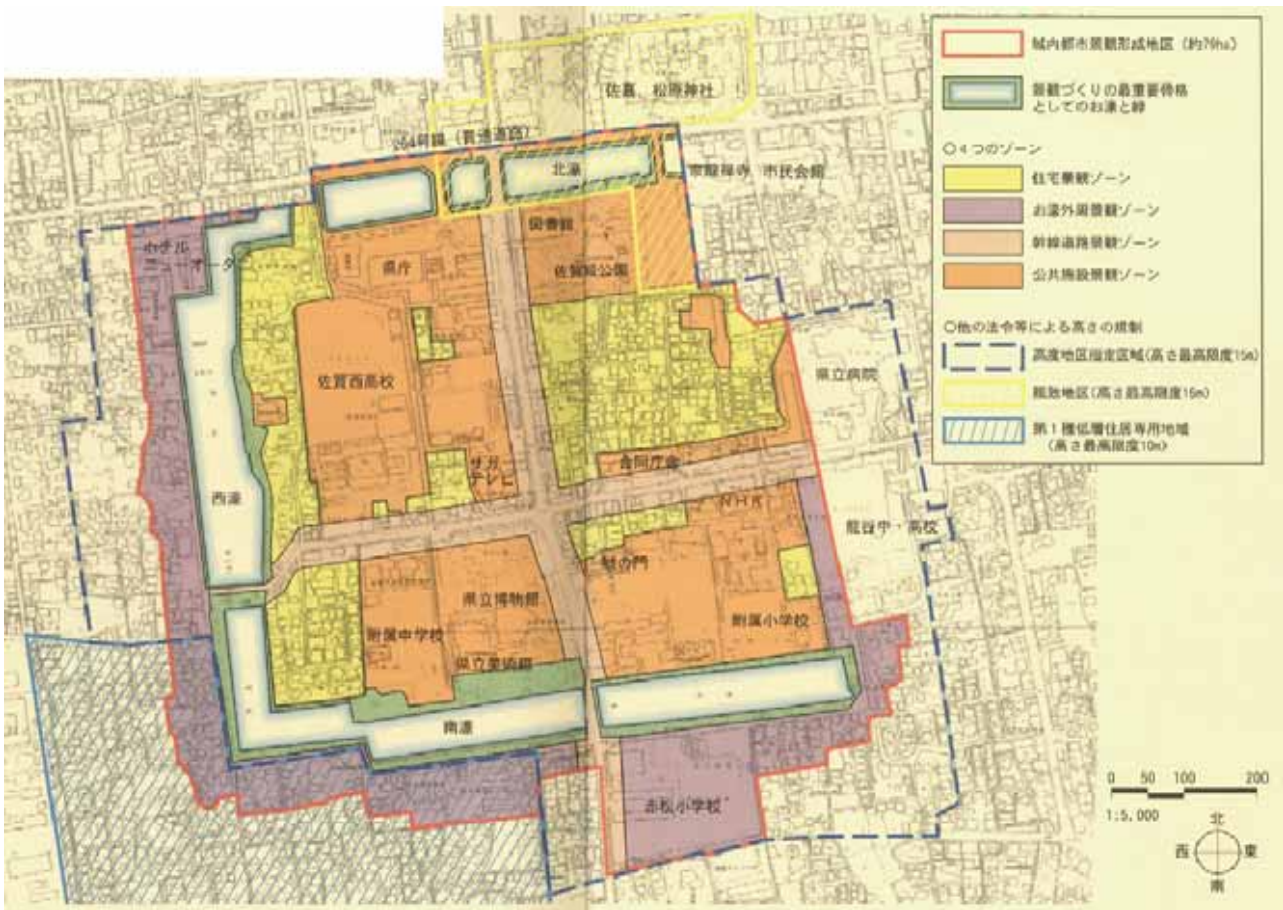


### 城内景観形成地区ガイドラインの策定

城内地区での景観形成に関する住民の機運の高まりから、佐賀市では建築物、広告物等の形態や色彩などのコントロールを行う都市景観形成基準を策定している。

「城内」として受け継いできた風格、お濠の水と緑が織りなす「ゆとり」をまもり、佐賀の顔としてのシンボル性をそだてながら、城内ならではの「たたずまい」をつくりだしていく、という城内都市景観形成方針に沿って、「住宅景観ゾーン」、「お濠外周景観ゾーン」、「幹線道路景観ゾーン」、「公共施設景観ゾーン」の4つのゾーニングを行い、それぞれのゾーンの特性を行かした基準項目を定めている。

### 城内都市景観形成地区





### 強制力のある地区計画の整備

上記の城内マンション計画等の問題から、城内においては条例化により強制力を持たせることのできる地区計画の整備を進めている。

対象区域は佐賀城内の64ヘクタール。2本の幹線道路沿いの20メートルの幅と西堀横はA地区(13ヘクタール)、そのほかはB地区(51ヘクタール)とし、観光客などの通行が多いA地区は規制をより強めている。

両地区とも建物の原則10メートル以下の高さ制限、屋上広告物の禁止、ブロック塀を禁止しており、マンション、アパートなどの集合住宅や長屋は、A地区は4戸以上、B地区が15戸以上になる場合は建てられない。

### 地区計画区域



項目		基準 (素案)
地区 整備 計画	建築物等の用途の制限	次に掲げる建築物は建築してはならない(抜粋)。 ・幹線道路沿道などの区域(城内A地区)は住戸数4戸以上、それ以外の区域(城内B地区)は住戸数15戸以上の共同住宅や長屋 ・床面積1,000㎡以上の店舗 ・危険物の貯蔵・処理施設
	建築物等の高さの最高限度	・建築物の高さの最高限度は10mとする。ただし軒の高さが10m以下の勾配屋根建築物は、最高限度を13mとする。
	建築物等の形態又は意匠の制限	・屋上広告物は、設置してはならない。 ・住宅部分では、自己用以外の屋外広告物は設置してはならない。
	かき又はさくの構造の制限	・道路に面してかき・柵を設置する場合、ブロック塀は原則として禁止し、生け垣または透視性のあるフェンスとする。



## 第2章 佐賀城下の利用実態

### 1. 中心市街地の歩行者の状況

中心市街地の衰退による駅から城内までの動線の弱体化

中心市街地の平成 17 年の歩行者の通行量を調査地点別にみると、通行量は玉屋周辺に集中しているものの、城下周辺での通行量は減少しており、佐賀市の中心市街地と城内地区との連携がなされていない状況である。

今後、城内地区と中心市街地の活性化によって相乗効果を生むためにも、来訪者の動線を中心市街地から城内地区へと導く動線の検討や連携するための仕掛けづくりが必要になる。

中心市街地の歩行者の通行量の状況 (H17 年)



赤い丸の大きさは交通量の値に比例させたもの

出典：佐賀市資料

## 2. 佐賀城本丸歴史館の利用状況

### (1) アンケート調査概要

佐賀城下の中核である佐賀城本丸歴史館の利用状況などから、来訪者の圏域やニーズ等を把握し、佐賀城下再生百年構想の策定の参考とするために、アンケート調査を実施した。調査期間は、3月3日(金)から3月31日(金)の佐賀城下ひなまつりイベント開催期間に行っている。

3月3日(金)～5日(日)の3日間は、調査員による聞き取りアンケートを実施し、その後31日までは、調査票を館内に据え置き、アンケートを記入してもらった。回答者数は386人となっている。



( 2 ) 結果概要

< 客層 >

・メインの客層は女性で、50代以上の人が多く、家族での来訪が6割、友人知人が2割となっている。マイカーでの来訪が6割だった。

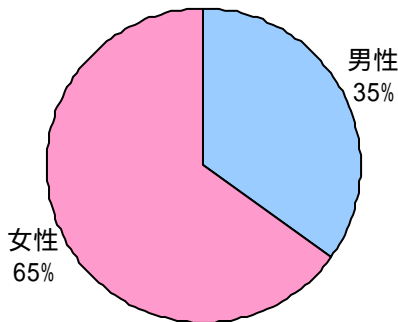
< 利用圏域 >

・居住地は、佐賀市内・佐賀県内の人全体が4割、福岡県内から2割。ほとんどの人が北部九州から来訪している  
 ・日帰り客が7割で、宿泊客は3割になっており、日帰りレジャー圏域となっている  
 ・宿泊客は、吉野ヶ里や嬉野・武雄など、唐津、有田などの佐賀県内を周遊している。

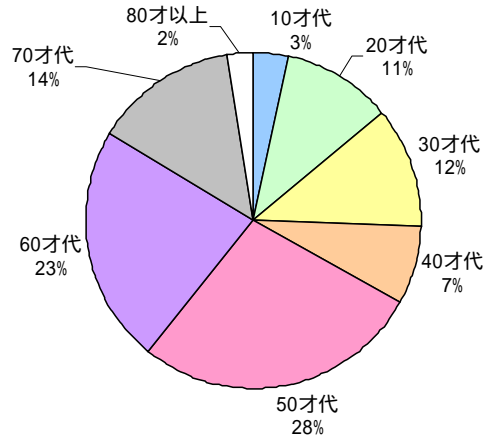
< 利用ニーズ >

・佐賀城本丸歴史館にくるきっかけは“観光のついで”が4割、本丸歴史館そのものを目的としている人が3割になっており、ついで利用が多い。  
 ・リピーターは3割存在しており、佐賀市内・佐賀県内の人が多い  
 ・城内のイメージは、“緑の多い憩いの場所”、“官公庁街”のイメージが1番と2番になっており、“観光地”としてのイメージは3番目  
 ・本丸歴史館の利用前後で買い物に立ち寄る人はほとんどいないが、“周辺で食事や喫茶のできる場”、“佐賀のお土産を買える場”を求める人は多く、需要に応じたサービスがなされていない状況になっている

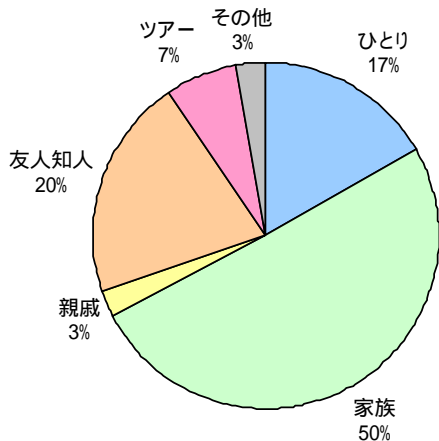
性別



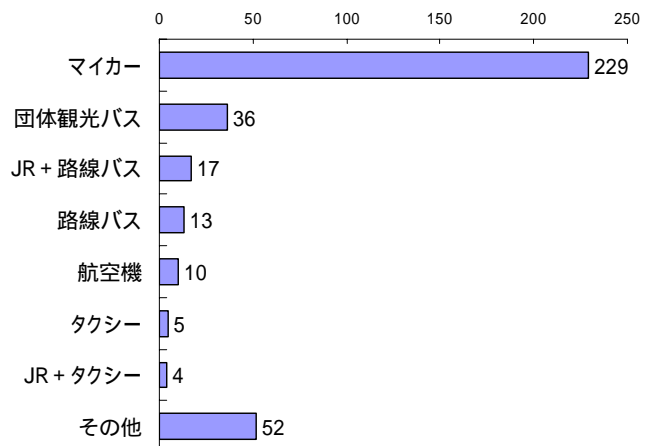
年齢



同伴者



交通手段

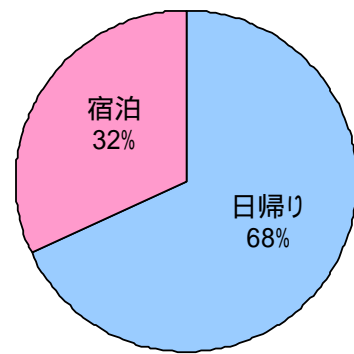
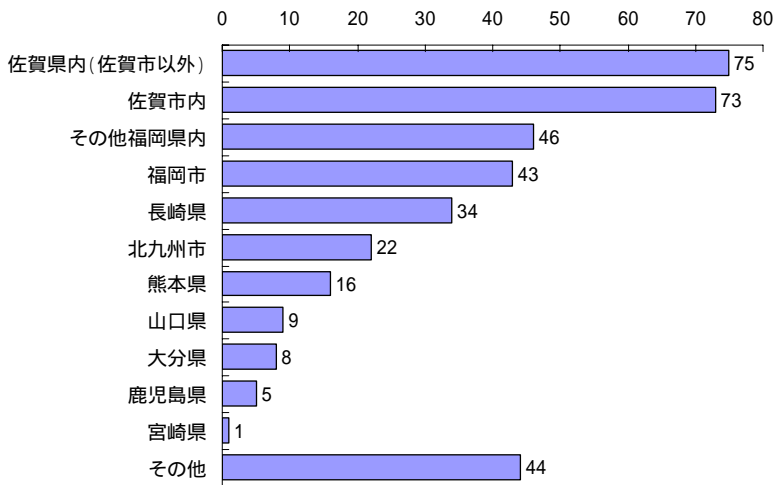


< 利用圏域 >

- ・居住地は、佐賀市内・佐賀県内の人全体が全体の4割、福岡県内から2割。ほとんどの人が北部九州から来訪している
- ・日帰り客が7割で、宿泊客は3割になっており、日帰りレジャー圏域となっている
- ・宿泊客は、吉野ヶ里や嬉野・武雄など、唐津、有田などの佐賀県内を周遊している。
- ・本丸歴史館以外で立ち寄った場所と、宿泊の有無のクロスを見ると、武雄・嬉野に宿泊している方が約3割となっている。

どこから来たか

宿泊の有無



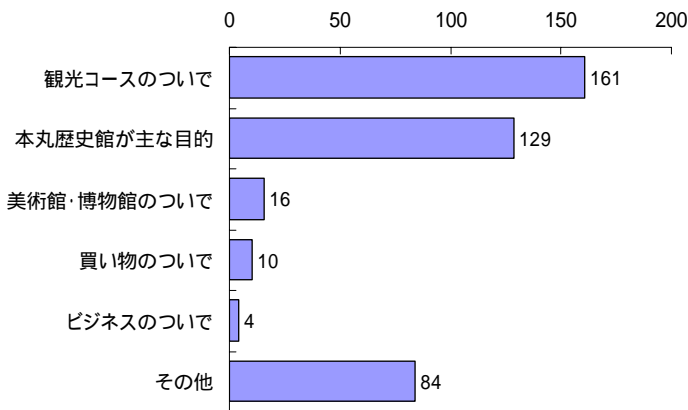
「本丸歴史館以外で立ち寄った場所(市外)」と「宿泊したか」のクロス集計

下段:%	合計	吉野ヶ里	唐津・呼子	有田・伊万里	武雄・嬉野	鹿島・祐徳稲	多久・厳木
合計	300	42	28	29	43	12	5
合計	100	14	9.3	9.7	14.3	4	1.7
日帰り	199	27	16	16	14	9	5
日帰り	100	13.6	8	8	7	4.5	2.5
宿泊	101	15	12	13	29	3	-
宿泊	100	14.9	11.9	12.9	28.7	3	-
下段:%	柳川	日田	吉井	長崎	熊本	福岡市	その他
合計	27	9	7	16	7	23	164
合計	9	3	2.3	5.3	2.3	7.7	54.7
日帰り	13	5	4	6	3	13	133
日帰り	6.5	2.5	2	3	1.5	6.5	66.8
宿泊	14	4	3	10	4	10	31
宿泊	13.9	4	3	9.9	4	9.9	30.7

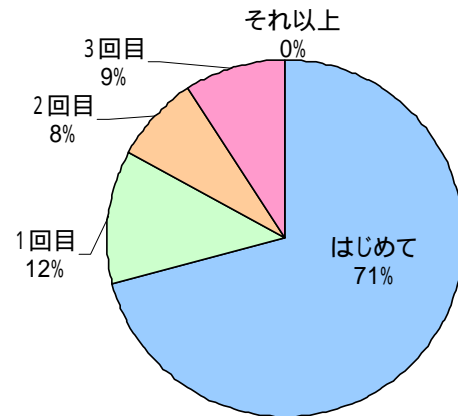
<利用ニーズ>

- ・佐賀城本丸歴史館にくるきっかけは“観光のついで”が4割、本丸歴史館そのものを目的としている人が3割となっており、ついで利用が多い。
- ・リピーターは3割存在しており、佐賀市内・佐賀県内の人が多い
- ・城内のイメージは、“緑の多い憩いの場所”、“官公庁街”のイメージが1番と2番になっており、“観光地”としてのイメージは3番目
- ・城内に期待する使節やサービスとしては、“周辺で食事や喫茶のできる場”、“佐賀のお土産を 買える場”を求める人は多く、需要に応じたサービスがなされていない状況になっている

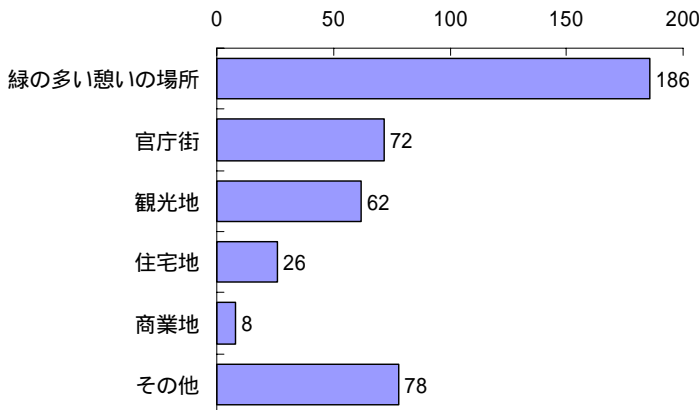
本丸歴史館に来たきっかけ



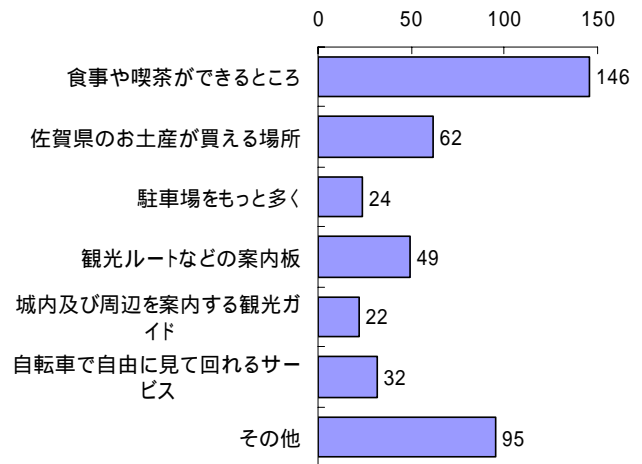
利用回数



城内のイメージ



城内に期待する施設やサービス





### 3. 立場別からみた佐賀城下の問題

#### 城内のイメージ

観光関連事業者 1	・佐賀城のイメージがない
観光関連事業者 2	・住宅・公園・公共施設など土地利用が混在しており、雑多なイメージがある。 ・タバコの吸い殻や空き缶のポイ捨てが多い。
交通事業者	・佐賀市観光振興戦略プランの中のアンケートで、県外から来た人は、佐賀に対するイメージがないという結果が出ていたが、佐賀市内の人にとっても、城内のイメージやアイデンティティが見えていないのではないかと。

#### 佐賀城本丸歴史館について

観光関連事業者 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金を落としてもらう仕組みをつくる必要がある。</li> <li>・物販機能の拡張が必要。</li> <li>・常設展示の他に、様々な企画展示が必要。</li> <li>・公設民営型でイベント館をつくり、そこに行けば何か面白いことが行われているといったイメージがいる。</li> <li>・イベントに合わせた物産展開。</li> <li>・個人を捨てて、営業に特化し、東京や大阪から団体観光客を呼び込む。</li> <li>・営業を強化し、修学旅行等の団体客をさらに呼び込む必要がある。</li> <li>・メディア戦略を立て、パブリシティを行いつつ、イベント館に観光客を呼び込めばいい。</li> </ul>
観光関連事業者 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示品は鍋島のもが多く、明治時代のもが少ないのでは？</li> <li>・周辺に食事処、休憩場所がないため、長い時間を過ごせない。</li> <li>・城内通り沿いに休憩ができるスポットを作してほしい。</li> <li>・観光施設は、オープン3年後から勝負だと言われる。3年後以降も観光客にリピーターになってもらうためには、魅力的なイベントの随時開催が必要。</li> <li>・本丸歴史館の庭で、浮立を行ってはどうか。龍造寺家にちなんだ祭であるという説があるので、物語としてもおもしろい。</li> <li>・本丸歴史館でバルーンを上げることはできないだろうか。殿様の目線で佐賀のまちをみるイベント</li> </ul>
交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本丸歴史館は、まだ完成して数年なので、定着するにはもう少し時間が必要。</li> <li>・期待していた以上に観光客が訪れており、好感を持たれているという印象がある。</li> <li>・城内に、和・落ち着いたイメージをもたらした。平家の安心感・空の広さを実感できる。</li> <li>・生活が多様化する中、洋風・和風などにとらわれず、本丸歴史館に親しむためのイベントを開催する。</li> <li>・財布に余裕のある40～50代に来てもらいたい。</li> </ul>
地元住民グループ 2 (東城内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人が動きまわるような仕掛けが必要である。</li> <li>・「ひなまつり」の時には、柳町から人が流れてこない。</li> <li>・周辺資源とのつながりをつけるためには案内する人が必要。</li> <li>・長老の中には説明できる人も何人かいるのではないかと。</li> <li>・早く、目に見える形としていくことが大切である。佐賀城本丸歴史館周辺の整備が遅れている。</li> </ul>
地元住民グループ 3 (西城内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喫茶店がなく、教えてあげられるお店がない。</li> </ul>
地元住民 4(水ヶ江)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史館オープン当時は商店街で、食べ物屋・土産物屋をだしていた。</li> </ul>
佐賀県物産振興協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開館して1年10ヶ月経つが、年間約1,500万ほどの売り上げ。</li> <li>・歴史館の物産コーナーは当初の設計では、玄関の位置が違ったので、お客の導線がちぐはぐになっている。</li> </ul>

城内の観光振興に関する意見・アイデア等

観光関連事業者 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境学習のメニューをつくり、修学旅行生を呼び込む事が必要。</li> <li>・市全体で子どもが勉強できるルートを設定し、その一部に本丸歴史館を組み込む。</li> <li>・観光バスが通るルートについてだけでも、景観を整備できないか。</li> </ul>
観光関連事業者 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状は、バスツアーで本丸歴史館に来て、すぐに唐津など次の観光地に行っている。本丸歴史館で佐賀の物語を紹介し、観光客がその物語に出てきた観光資源を回るコースをつくるなど、城内に来た観光客の行動を点から線につなぐ仕掛けが必要。</li> <li>・佐賀は平坦で、自転車に適したまちだと思ふ。本丸歴史館で自転車を貸し出して、駅で返すような仕組みをつくれないうか。</li> <li>・本丸歴史館は団体・ツアー客対応の施設となっており、増え続ける個人旅行者への対応が弱いと感じる。</li> <li>・案内所の機能を高めるなど、個人客が情報を得て、思い思いに佐賀の観光資源を見て回ることができるようななればいいと思ふ。</li> </ul>
交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・えびす大祭の体制や企画を見直し、季節毎の市内の特産品・旬の食材・伝統工芸品等を持ち寄った「えびす市」を開催したいと考えている。</li> <li>・えびす市は、陶器・お茶・お菓子など、会によってテーマを変えながら、継続できるイベントにしたい。</li> </ul>
地元住民 1(中の館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本丸歴史館の中で地域のお祭りを開催している。</li> <li>・赤松小学校のコミュニティ部会で5～6年生と地元の歴史を勉強している。そういう人たちが城内の回遊ガイドをできないか。</li> <li>・タカノブ公園に県指定文化財の記念碑がある</li> <li>・お堀の南側には、ヨシに囲まれた殿様の逃げ道ルートがあった。</li> <li>・お堀の回りにはお寺が多い。鍋島藩に仕えていた天台宗の祈禱寺がある。</li> <li>・城内の近くではないが、葉隠れの座禅をやっているお寺(通天寺?)がある。</li> <li>・江戸時代には、馬の飼育場となっていたと思われる厩橋(うまやばし)など、歴史のある地名の橋や場所がある。</li> <li>・協和館をうまく活用できないか。</li> </ul>
地元住民グループ 2 (東城内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔料亭だった「二の丸別館」は経営を引き継ぐ人がおらず廃業し、売りに出されている。</li> <li>・城内を訪れた人が「きれい」と感じるまちづくりを。</li> <li>・歴史的な街なみのところは石畳みにするなど、城内にあった整備を。</li> <li>・街灯も城内の雰囲気にあったように統一。全体的に雰囲気づくり。</li> <li>・一方通行の道路が多いのは問題。</li> <li>・佐賀城を訪れた人で歴史に興味がある。歴史の案内コースをわかりやすく整備する必要。</li> <li>・佐賀城本丸歴史館と佐嘉神社をつなぐ最短の道筋にあたる本丸小路、二の丸小路のイメージをどうつくるかも必要である</li> <li>・水道局跡地にお店をつくっても、お客さんは道路を横断しないのでは。逆に民地の建物を動かして、歴史館と一体的に整備した方がよい。</li> <li>・水道局跡地は駐車場として整備。</li> <li>・東城内には、二の丸小路の入り口に開拓記念碑、その隣に稲荷神社がある。</li> </ul>
地元住民グループ 3 (西城内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県が土地を無償提供して、道の駅みたいなことはできないか。</li> <li>・喜楽のまちかど畑は道の駅風で、お客も多い。食事もできるし、弁当もある。魚貝も充実している。観光バスも来ている。</li> <li>・城内には、桜とホテルという要素がある。時期に限られるが、お酒も入るので、泊まる人が増えるのでは。</li> <li>・西城内からちょっと出たところにお酒屋さんもある。</li> <li>・花見のシーズンは、お堀端でお弁当を販売できるようにしてほしい。</li> <li>・文化財の指定を受けている建物の中も、物産店などで活用できるようにしてほしい。</li> <li>・情報センターも地元のギャラリーに協力してもらって、活用を考えている。</li> <li>・情報センターは道路を挟んでいる。道を渡らせるにはよほどの魅力がないといかない。</li> </ul>
地元住民 4(水ヶ江)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七小路の歌なども残っており、昔のことをしゃべれる人はいる。</li> <li>・街なかを観光する人は、浦路地を歩いてみたいと思ふ。古い建物が残っている二の丸小路と松原神社をつないで参道のイメージをつくれないうか</li> <li>・北部の方にある地場産支援センターや県の物産センターを統合して本丸前に持ってくればいい。</li> </ul>
佐賀県立博物館・美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本丸歴史館の開館時間に合わせて、博物館も夜8時まであけている。</li> <li>・本丸歴史館では、飲食ができないので、博物館にレストランを設置。一日の利用客は50～60人程度。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副島種臣の企画展をパートを本丸歴史館と分けて開催したが、相乗効果は生まれなかった。</li> <li>・一般の観光客には、本丸歴史館で1時間見て、博物館で1時間過ごすというのはきつい。テーマが似ていると、どちらか一方で十分となる。</li> <li>・本丸歴史館は観光施設の要素が強いので、観光バスなどのツアー客は博物館に流れてこない。</li> <li>・本丸は体験型で遊んでもらうイベントを行って、博物館・美術館で学術的な勉強や学習ものをおこなって、相乗効果でお客が増えればいい。</li> <li>・ひなまつりの影響もほとんどない。</li> </ul>
--	--

### 城内の状況

地元住民1(中の館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中ノ館と水ヶ江は、赤松校区で唯一人口は増加しているところ。</li> <li>・田んぼが減って、マンションが建っている。300世帯だったのが、今では500世帯を超える。</li> <li>・城内より南は、自由校区なので、居を希望する人が多い。</li> <li>・同じく南に位置する鬼丸では人口は減少している。</li> </ul>
地元住民グループ2(東城内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、290世帯で減少傾向</li> <li>・75歳以上は70人ぐらい。</li> <li>・空き家は7件あるが売却できない状況。</li> <li>・1人暮らしの世帯は20~30件はあり、将来は空き家になる可能性が高い。</li> <li>・親との同居世帯も少ない。5年後にはかなり様変わりするのではないか。</li> <li>・小学生は、1~6年生合わせても14~15人。今年の中学校の新1年生は1人。</li> <li>・子供は博多など市外に勤め、戻ってこない。</li> <li>・市内に勤める人も便利がよい郊外部に家を建てる。</li> <li>・住宅を増やしていきたいが、アパート居住者は自治会に参加しないのであまり好ましくない。</li> <li>・二の丸小路沿いには、司法書士や家屋調査士などの事務所が多いが、ほとんどが借家である。</li> <li>・総合庁舎が移転すると、司法書士事務所も出ていく可能性はあり、城内のまちも寂しくなる。</li> </ul>
地元住民グループ3(西城内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家が非常に多い。</li> <li>・浮浪者が空き家に住み着いて問題化したこともある。草が生え放題になり、建物は朽ちるので、景観上も問題。</li> <li>・大家さんが、集落内に住んでいないところが多くなっている。</li> <li>・大家さんは、管理を近所の人に任せているので、日常のコンタクトはほとんどない。</li> <li>・人口を増やさないと自治会が壊れてしまうという認識は、みんな根底に持っている。</li> <li>・古い戸建てが多いので、借りる人もあまりいない。</li> <li>・既存不適格の家も多く、建て替えや道路の拡幅も難しい土地が多い。</li> <li>・65歳以上の高齢者が3割近くになっており、小学校に上がる子供は年に1人程度。子供会やPTAが成り立たない状況。</li> <li>・西城内は、サラリーマン家庭がほとんど。</li> <li>・大きくなった子供たちは地元で就職先がないので、出て行ってしまえばかりだ。</li> <li>・西城内は買い回りできるお店がない。お豆腐買うにもタクシーに乗らないといけない。</li> </ul>
地元住民4(水ヶ江)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・城内地域に人が住まなくなってしまうのは困る。</li> <li>・自治会の中には、地区の人口を増やした方がいいという考えの人がかなりいる。</li> <li>・城内にある施設を郊外に移転するのではなく、できるだけ残してもらいたいという心情。</li> <li>・世帯数は600ほどあるが、今年小学生に上がったのは、地区で1~2人程度。</li> <li>・75歳以上の人136人もおり、そのほとんどが1人・2人暮らし。</li> <li>・商店街の経営者の平均年齢は40代から50代前後。70代の人で八百屋や毛糸屋などをしている人もいるが、年金生活者なので、それほど商売に熱心ではない。</li> <li>・空き店舗は駐車場になっている。付属幼稚園の送り迎え用の車を止めるために借りている人がけっこうおり、駐車場ニーズはまだある。</li> </ul>

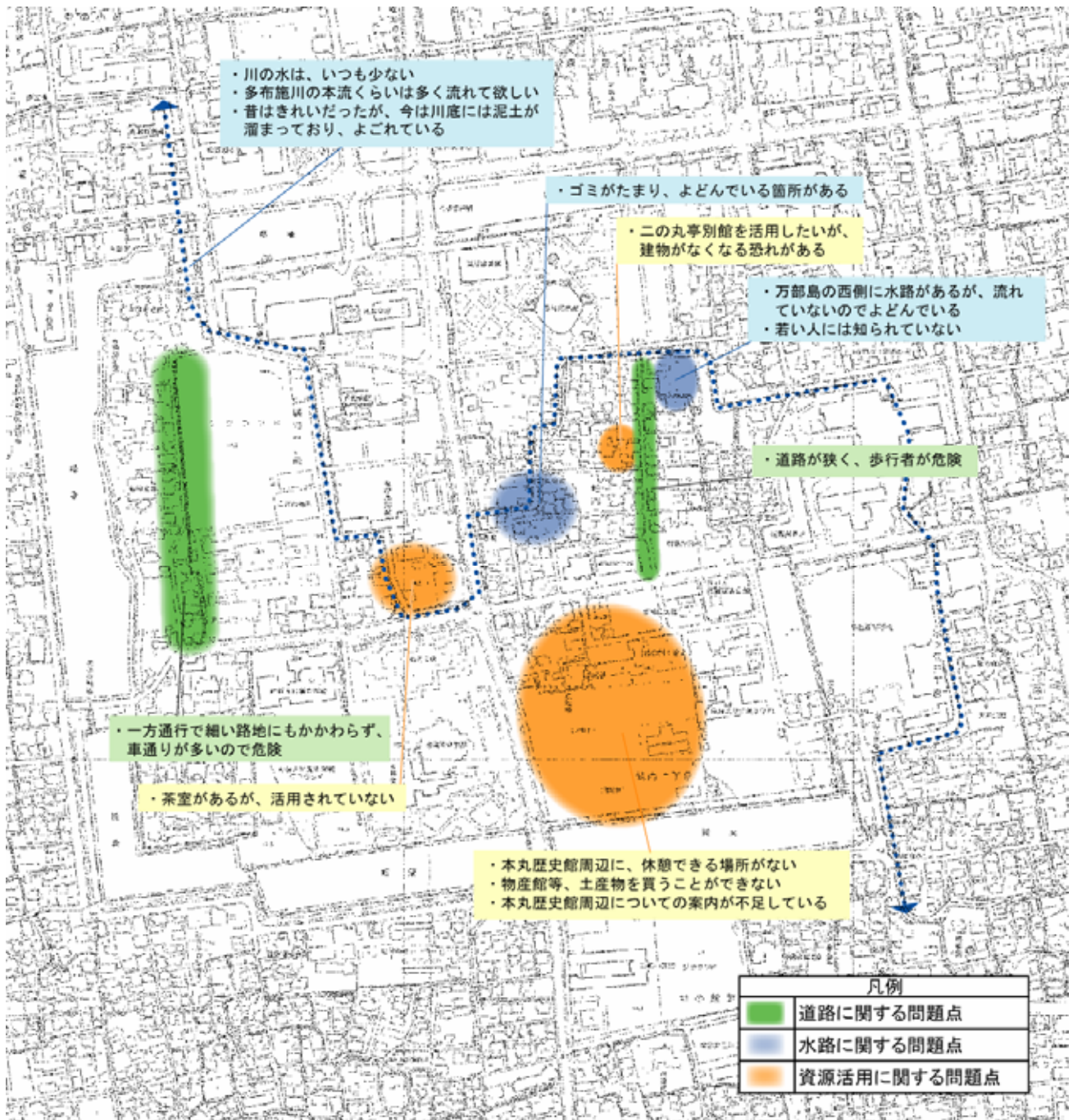
## 城内のまちづくりについて

観光関連事業者 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お堀の景観はとても美しい。お堀でヨットのラジコンレースを開催するなど、堀を活用したイベントができないか。</li> <li>・お堀や多布施川などの水辺空間があるが、汚れているところもある。</li> <li>・堀や多布施川を住民参加で清掃するなど、水をきれいにする活動をイベント的に行ってはどうか。</li> <li>・現状は土地利用が混在しているが、100年かけて住宅地や公園、公共施設をゾーニングしていけばいいのではないか。</li> <li>・堀や多布施川に菖蒲などの花や果樹を植え、女性が好きなまちづくりをしてほしいと思う。</li> </ul>
交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嗜好の多様化、少子高齢化など、これからの時代の流れを先取りする必要がある。</li> <li>・佐賀は空地や駐車場が多いので、まちづくりの自由度は高い。</li> <li>・交流・環境・少子高齢化に対応したまちづくりが必要。</li> <li>・箱物や、単体の施設に期待する訳にはいかない。</li> <li>・城内から自家用車をシャットアウトし、バス・タクシー等の公共交通や自転車のみが通行できるようにすることも考えられる。</li> <li>・時代を先取りしたモデルをつくる。田舎だからこそ実験できる。そのためには、現在済んでいる人の意識改革が必要になる。</li> <li>・城内の住宅について、高さや、壁・瓦の色を統一してもいい。</li> </ul>
地元住民 1(中の館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川の清掃はボランティアでやっている。</li> <li>・年1回は、自治会で4人ほど清掃者を雇って掃除している。</li> <li>・宮田市長のときに、地元での清掃活動を頼まれたのがきっかけ。</li> </ul>
地元住民グループ 2 (東城内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月、7月、9月は6:20分からの早朝草むしりを行っている。</li> <li>・春と秋には河川清掃を行っており、参加者は70人程度。参加される人の年齢は60~70歳の人が大半である。</li> <li>・アパート居住者は、ほとんど地域の活動に参加しない。</li> </ul>
地元住民グループ 3 (西城内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楠の木が多いが、掃除が大変。</li> <li>・葉っぱが多いと虫も多いので、木を丸裸に剪定してほしいと要望もある。</li> <li>・葉っぱが雨樋につまることも多く、お年寄りには掃除が大変</li> <li>・城濠は朝夕の散歩コースになっているが、車を停めるところがないので、よそから来た人には不便な公園。ベンチも日陰にない。</li> <li>・電線の地中化をしてほしい。</li> <li>・東堀の復元。</li> <li>・特別な地区としての意識付けがいる。</li> <li>・ガードレール(パイプ)はなくてもいいのでは。せめてメインストリートだけでも。</li> </ul>
地元住民 4(水ヶ江)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりをやろうと声をかければ5人ぐらいは集まるが、それから広がらない。</li> <li>・年寄りが多く、年金生活者が多いというのもあるが、手間暇のかかることを嫌がる佐賀の気質も影響していると思う。</li> <li>・商人塾でネクタイをつくったり、早稲田商店街と連携してエコステーションをつくったりしているが、続いていかない。</li> <li>・まちづくりの旗振り役がいけないのが問題。</li> <li>・20代のメンバーが2人ほどいるのが救い。ただ、年が離れすぎていると会話ができないくなるので、新しい人がなかなか入ってくれない。</li> </ul>

#### 4. 佐賀城下の問題マップ

下の図に、城内について出された意見の中で、地図に落とすことのできるものをプロットした。特に水路や道路についての意見が多く出されている。

佐賀城下の問題マップ





## 5. 佐賀城下の課題

### 佐賀城下のイメージ形成の必要性

城内には県庁・学校など公共施設、住宅地、佐賀城本丸歴史館などの土地利用に分かれ、統一したイメージが弱い。また、城内と城下エリアの範囲が不明確であり、来訪者を佐賀城内へ誘導するゲート性の弱さも指摘されている。

(佐賀城本丸歴史館訪問者アンケート)

・「緑の多い憩いの場所」が約 50%、「官庁街」19%、「観光地」約 16%とイメージがばらついているといった印象がある。

(観光事業者ヒアリング)

・公園・住宅・公共施設など、雑多なイメージがある。

### 佐賀城本丸歴史館を核に、周辺へ波及効果を生む仕組みづくりが必要

佐賀城本丸歴史館の周辺には、美術館や博物館等が立地するものの、観光客が憩える場所、施設がないため、城内地区として本丸歴史館を活かした有効活用がなされていない状況である。

また、「柳町地区」「松原地区」を中心として優れた観光資源が存在するものの、相乗効果を生むような連携が生まれていない状況である。本丸歴史館の前の二の丸小路の賑わいを創出し、来館者の行動が広げたり、回遊したくなる誘導サインや看板の整備や、観光ルートのテーマ開発や連鎖的なイベントの開催、観光ルートのガイド設置など、中心市街地や観光エリアとの回遊性や滞在性を高める連携が必要になっている。

(美術館・博物館ヒアリング)

- ・本丸歴史館は飲食ができないので博物館にレストランを設置したが、あまり知られていない。
- ・一緒にイベントを行っても、相乗効果が生まれなかった。
- ・観光バスなどのツアーの客は博物館に流れてこない。

(本丸歴史館アンケート)

- ・城内に期待する施設やサービスでは、食事や喫茶ができることを求める人が4割以上。また、お土産を買える場所を求める人が約2割近くいる。

(自治会ヒアリング)

- ・城内には喫茶店がなく、教えてあげられるお店がない。長い時間を過ごせない。
- ・「ひなまつり」の時には、柳町から人が流れてこない。
- ・周辺資源とのつながりをつけるためには案内する人が必要である。

(観光事業者ヒアリング)

- ・観光客にリピーターになってもらうためには、魅力的なイベントの随時開催が必要。
- ・人が動きまわるような仕掛けが必要である。
- ・案内所の機能を高めるなど、個人客が情報を得て、思い思いに城内周辺の観光資源を見て回ることができるようになればいいと思う。

### 人口減少によって希薄になる地域コミュニティの再生の必要性

人口減、高齢化の進展によって、水路清掃など地域活動の維持が困難になることが懸念される。城内エリアへの若い世帯の流入が少ないため、小中学校の入学者が年々少なくなっており、将来、子供を通じた地域のつながりが希薄になってくることが危惧される。また、放棄された空き家が増加することが予想され、街のイメージの悪化や昼間の賑わいがなくなることも心配されるため、地域コミュニティの再生も踏まえた城下のまちづくり検討が必要である。

#### (現状データ)

- ・赤松校区全体としては人口は減少傾向、高齢化率が高まっている。

#### (自治会ヒアリング)

- ・東城内自治会での河川清掃の参加は70人でほとんどは60～70歳代である。
- ・東城内地区の小学生は1～6年生合わせても14～15人。今年の中学生の新一年生は1人
- ・西城内で小学校にあがる子供は1人程度で、子供会やPTAが成り立たなくなる状態
- ・東城内地区の空き家は7件あって、売りに出しているが売却できない状況。1人暮らしの世帯は20～30件あり、将来、空き家になる可能性が高い。
- ・西城内地区でも空き家が増えており、浮浪者が住み着いて問題となった。また、建物も朽ちるので景観上問題
- ・城内の施設は郊外に移転するのではなく、できるだけ残してほしい。
- ・城内の総合庁舎が移転すると、東城内地区に二の丸小路沿いの司法書士や家屋調査士の事務所も移転してしまう。

### 公園、道路、水路などの公的空間の景観整備が必要

多布施川、松原川、お濠、水路は、佐賀城下特有の貴重な水辺空間であり、美しい景観を形成しうる可能性の高いところである。しかし、住宅地の背面になっていたり、一部汚れているところもあるなど、その整備は十分とはいえない状況である。地元での河川清掃活動なども後継者等の問題を抱えていることから、ソフト・ハード両面からの整備が必要である。

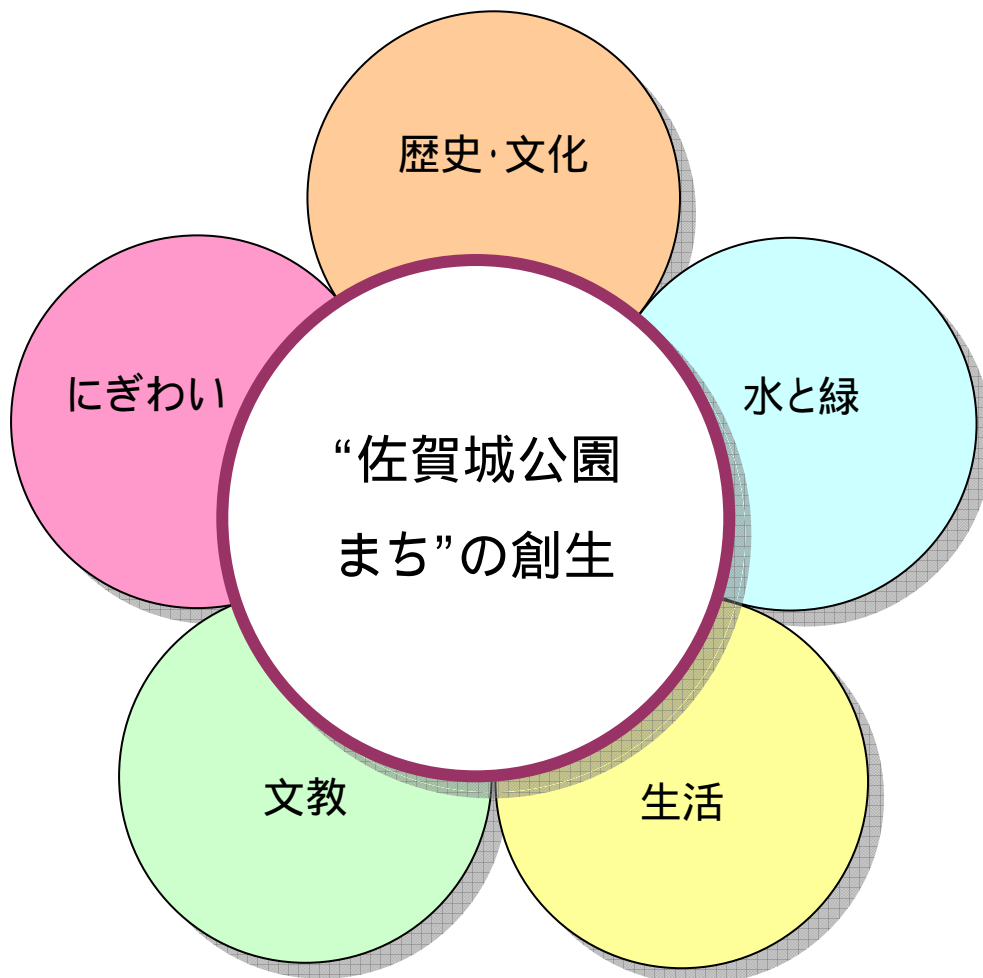
#### (自治会ヒアリング)

- ・堀や多布施川を住民参加で清掃するなど、水をきれいにする活動をイベント的に行ってはどうか。
- ・堀や多布施川に菖蒲などの花や果樹を植え、女性が好きなまちづくりをしてほしい。
- ・城内の住宅について、高さや、壁・瓦の色を統一してもいい。
- ・楠の葉が雨樋につまることも多く、お年寄りには清掃が大変
- ・城濠は朝夕の散歩コースになっているが、車を停めるところがないので、よそから来た人には不便な公園。ベンチも日陰にない。

### 第3章 佐賀城下再生百年構想(案)

#### 1. 構想のコンセプト

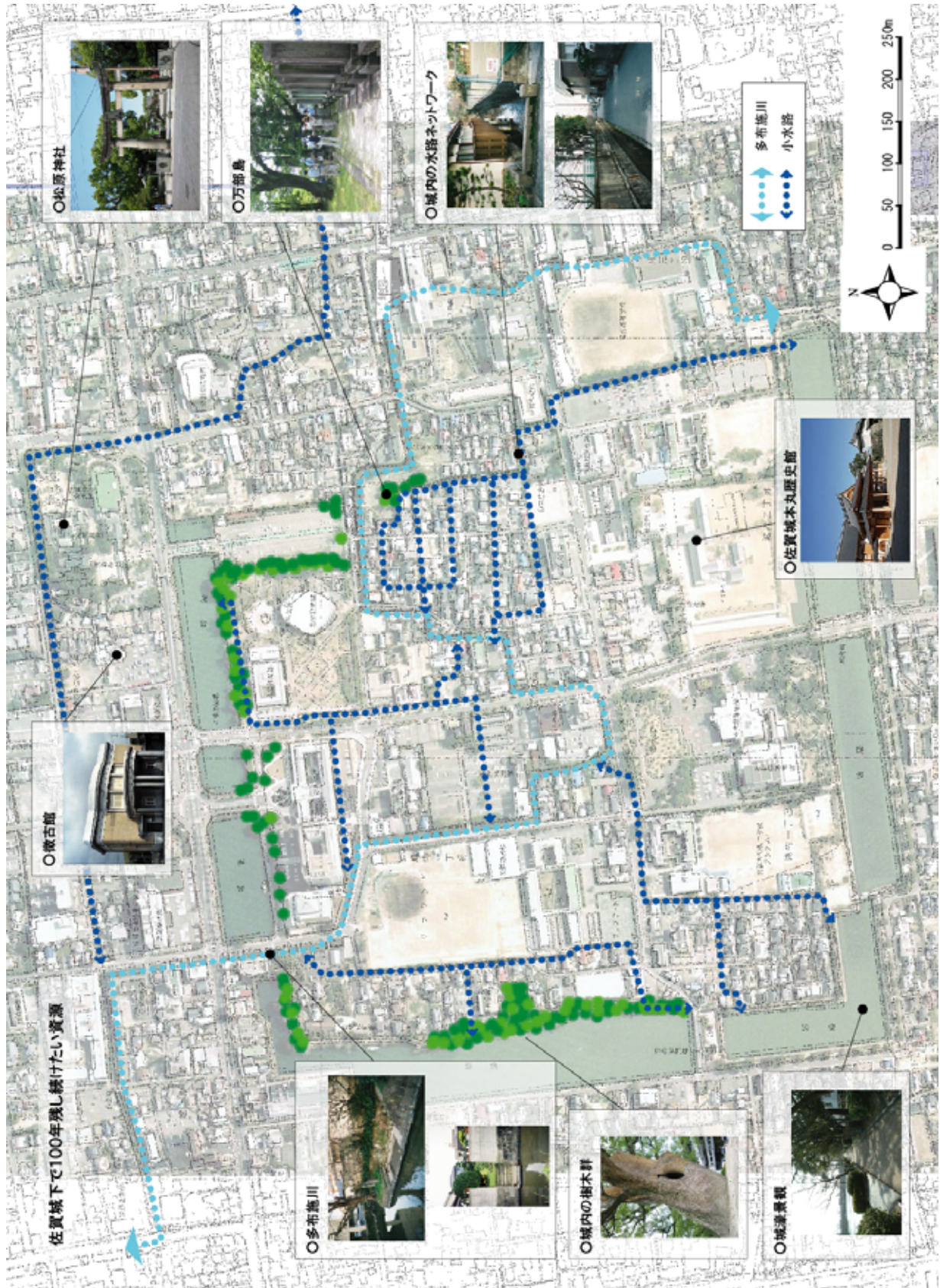
本構想は、100年後の孫の世代まで受け継げる品格ある佐賀城下再生を実現するため、平成3年度に策定された「佐賀城公園まち構想」における、歴史と文化の森“佐賀城公園まち”という基本コンセプトを継承しつつ、緑といった自然的な空間と、歴史的雰囲気を感じる公園、住宅地や公共公益施設との調和を図りながら、“佐賀城公園まち”を中心に佐賀城下の歴史・文化、水と緑、生活、にぎわい、文教機能を高めていく。





## 2. 佐賀城下で100年残し続けたい資源

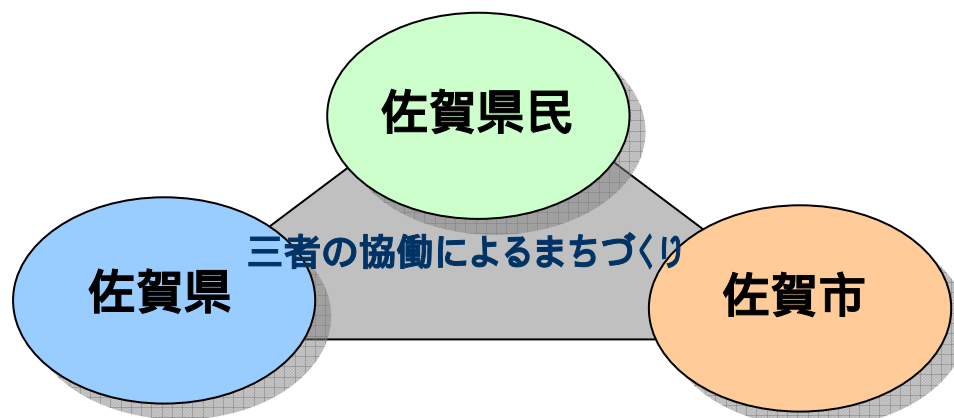
現在佐賀城下に存在する資源で、100年後まで残すべきもの・景観について整理を行った。佐賀城下を形成する要素である、お濠、多布施川、水路などの水辺空間、松原神社などの歴史的建造物、クスノキに代表される樹木群の3つの継承が必要となっている。



### 3. 構想の5つの目標

#### 住民と行政の協働のまちづくり

住民主体の地区計画策定など、まちづくり機運が高まりつつある城内地区において、佐賀県、佐賀市、県民が一体となった協働まちづくりを進めるとともに、その取り組みの成果が周辺地域や住民等にも伝わるように、具体的な連携活動を展開していく。



#### 地域コミュニティ活性化

佐賀城下の住宅地エリアで増加する空き地・空き屋への対応や、次世代に受け継ぐべき佐賀城下の歴史文化や地域活動などの担い手不足への対応などについて、地域コミュニティの活性化の視点に立ったまちづくりを進める。

#### 品格ある佐賀城下景観の形成

佐賀城下を流れる多布施川、お濠、水路は佐賀城下特有の貴重な水辺空間であり、美しい景観を形成しうる可能性が高いため、町並み整備と合わせた水路や多布施川の活用などを進める。

#### くつろぎ・にぎわいの空間創出

佐賀城本丸歴史館を中核に、本丸・二の丸エリアを観光拠点化することで、観光客が憩える場所、買い物をできる場所を創出し、滞在できる場の形成を図る。また、季節に応じたイベントを地域住民と連携して行うことで、地域の振興を図るとともに、来訪者のリピーターの創出を目指す。

城内において、来訪者へのもてなし意識の向上を図るために、地元の人と観光客がふれあい、もてなしの空間を創出する



## 周辺地域との連携

「佐賀城下エリア」と「柳町地区」「松原地区」に存在する優れた観光資源との相乗効果を生むため、佐賀城本丸歴史館から松原神社につながる二の丸小路に賑わいの創出、各拠点の来訪者の行動を広げる回遊したくなる観光ルートのテーマ開発や連鎖的なイベントの開催、観光ルートのガイドサービスなどを行うとともに、誘導サインや看板の整備などの整備を進め、拠点間のネットワークの強化を図る。

